公益社団法人低温工学・超電導学会
第 14 回社員総会資料

日　時　　令和 6 年 5 月 24 日（金）　16:45～17:15
会　場　　明星大学（A 会場）
　　〒191-8506 東京都日野市程久保 2 丁目 1-1

第 14 回公益社団法人低温工学・超電導学会社員総会次第

１．総会成立確認
２．会 長 挨 拶
３．議 長 選 出
４．第 1 号議案　令和 5 年度事業報告、決算報告に関する件
５．第 2 号議案　次期役員の選任に関する件
　　理事：令和 6 年度、7 年度
　　監事：令和 6 年度から令和 9 年度
６．報告事項　　令和 6 年度事業計画、予算計画
７．議事録署名人選出
８．総会終了挨拶

令和 6 年度褒賞授与、フェロー顕章式次第

１．褒賞選考経過報告
２．褒賞授与
３．フェロー選考経過報告
４．顕彰

第１号議案資料

令和５年度事業報告

Ⅰ　公益目的事業［１］

（１）研究発表会事業

１）2023 年春季低温工学・超電導学会研究発表会（通算第 105 回）

・会期：2023 年 5 月 31 日～6 月 2 日
・会場：タワーホール船堀＋オンライン
・参加者：296 名
・発表件数：126 件
・併設展示会：25 件

２）2023 年秋季低温工学・超電導学会研究発表会（通算第 106 回）

・会期：2023 年 12 月 4 日～12 月 6 日
・会場：海峡メッセ下関＋オンライン
・参加者：322 名
・発表件数：159 件
・併設展示会：16 件

３）調査研究会として、次の 6 テーマを実施した。

・「カーボンニュートラルに向けた核融合研究の新展開に関する調査研究会」（継続）
・「時空間変調磁場の制御と応用に関する調査研究会」（継続）
・「野外磁場印加用超大型コイルの設計研究」（継続）
・「小型核融合用 REBCO 導体とマグネットの実用化に関する調査研究会」（継続）
・「中温度域超伝導材料の機能性に関する調査研究会」（継続）
・「高温超伝導バルク体の産業応用に関する調査研究会」（継続）

（２）学会誌出版事業

１）第 58 巻 3 号～59 巻 2 号の 6 冊を発行した。

２）特集テーマとして以下 5 件を実施した。

・58 巻 3 号：A15 超伝導線材の研究開発(1)
・58 巻 4 号：A15 超伝導線材の研究開発(2)
・58 巻 5 号：高圧ガス保安法改正及び関連冷凍技術
・59 巻 1 号：超伝導エレクトロニクスによる最先端計測技術
・59 巻 2 号：広がる超電導回路の応用

（３）国際交流事業

１）　若手研究者国際交流奨励プログラム（国際交流奨励賞）：春季研究発表会において 1 名の応募者があり、審議の結果 1 名の候補者を選考し、褒賞委員会に推薦した。

２）第 6 回アジア超電導スクール：11th ACASC/3rd Asian-ICMC の際に上海（中国）での開催予定であったが、参加者の状況と運営費の高騰を考慮して、山口県下関市で開催された本学会の秋季研究会（12 月 4 日～6 日）のサテライトとして、12 月 7 日に九州大学伊都キャンパス（福岡市）において開催した。超電導材料の基礎から先端評価技術、高温超伝導線材製造技術の進展、量子技術を含む超伝導のビジネス応用に関する幅広い話題について、海外からの講師を含む 4 名の著名研究者による講義を行った。運営には IEEE CSC の協力も得て国際的な案内を行い、国内外より、30 名の参加者があった。

３）秋季講演会での ScGA に関するシンポジウム開催に協力した。

４）ESAS との MOU を締結した（10 月 12 日）。

５）国際会議等との連携：

・10 月 29 日～11 月 1 日に上海で開催された、11th ACASC/3rd Asian-ICMC の開催準備と運営に協力した。
・Asian-CSC 会議開催（10 月 31 日@上海）し、アジア地区の超電導・低温工学分野における連携について議論するとともに、次回 ACASC/Asain-ICMC の開催を本学会がホストとなって日本で開催することを決定した。
・KIASC の後継団体である韓国低温工学超電導学会（KSSC）との MOU 締結について、KSSC 会長ならびに国際担当理事との協議を行った（11 月 3 日@ソウル）。
・ESAS ボード会議（対面）に出席し、その運営ならびに MOU について議論をおこなった（9 月 3 日）。
・IEEE CSC AdCom 会議（対面）に出席し、協働事業の実施報告を行った（9 月 8 日）。
・ICEC など国際的学術団体での Award に対し、関連研究者の推薦を行った。

６）委員会の運営に関する討議：国際交流委員会をハイブリッド形式にて、春季・秋季研究会の際に 2 回開催した。

（４）広報・広告関連事業

１）学会員、賛助会員及び支部の事業会員への広報活動を実施した。

２）学会 HP アクセス数改善のため統計情報分析を行った。

３）製品マップの改訂を行った。

（５）ホームページ事業

１）学会ホームページの維持・更新を継続した。

２）英語版ホームページの充実化を継続した。

３）製品マップ等情宣活動を継続した。

（６）教育・セミナー事業

2024 年 1 月 27 日（土）に市民公開講座「超電導と極低温の世界」を東京都江東区お台場の日本科学未来館で開催した。また同講座で行われた実験動画を撮影編集し YouTube の低温工学・超電導学会チャンネルにアップロードした。

（７）環境・安全関係事業

１）環境・安全委員会の委員会会合を 4 回開催した（対面 1 回、他はオンライン）。

２）安全技術マニュアル（Safety in the Handling of Cryogenic Fluids 和訳版）を web 公開し、ひきつづき

初級者向け安全テキストも近日中に web 公開予定（原稿集約完了）。

3）日本学術会議主催の安全工学シンポジウムに共催し、実行委員会およびシンポジウム（2023 年 6 月 22～23 日）に参加。

4）冷凍部会との共催で 2023 年度第 7 回冷凍部会（公開）をハイブリッドで開催した（12 月 13 日）。テーマ：安全と教育。参加者：33 名（会場 20 名，オンライン 13 名）。

5）極低温機器の信頼性に関するアンケートを企画。委員会内組織として WG を設置（ASCOT と委員会から計 7 名選出）。アンケートは 2024 年度早々の実施を予定。

（8）研究会事業

1）材料研究会として、委員会を2回、シンポジウムを4回開催した。

・第 1 回シンポジウム：レーザーが拓く超伝導の未来、2023年6月30日(金)、産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館およびオンライン開催。参加者：46 名

・第 2 回シンポジウム（東北・北海道支部と共催）：カーボンニュートラルなエネルギー社会の実現を目指す低温・超電導技術、2023年8月9日(水)-10日(木)、秋田市カレッジプラザ、 能代ロケット実験場(見学)。参加者：17 名。

・第 3 回シンポジウム（九州・西日本支部と共催）：どこまで理解できた磁束ピンニングと臨界電流密度、2023年11月10日(金)、熊本大学およびオンライン開催。参加者：35 名（現地 22 名，オンライン 13 名）

・第 4 回シンポジウム：いま福島で語らう“復興とは何か？” ～科学技術と地域文化の観点から～、2024年3月15日(金)-16日(土)、見学会：福島ロボットテストフィールドおよび東京電力福島第一原子力発電所、シンポジウム：コラッセふくしま（福島駅前）、ハイブリッド開催。参加者：27 名（オンライン 3 名、対面 24 名）。

2）超電導応用研究会として、委員会を 2 回、幹事会を 1 回、シンポジウムを 5 回開催した。

・第 1 回（電気学会 電力・エネルギー部門 超電導機器技術委員会との共催）、特別講演会、一般講演会、電気学会会議室（千代田区）と Microsoft Teams によるハイブリッド開催、2023 年 7 月 3 日、18 件の講演（内、特別講演 2 件）

・第 2 回（カーボンニュートラルに向けた核融合研究の新展開に関する調査研究会との共催）、核融合技術の最新動向と阪大レーザー装置の見学、大阪大学レーザー科学研究所（大阪市）において開催、2023 年 8 月 23 日、参加者 31 名。

・第 3 回（冷凍部会、超電導回転機の冷却技術に関する調査研究会との共催）、 2023 年度超電導回転機及び周辺冷却システムに関する講演会、ホテル機山館（千代田区）と Microsoft Teams によるハイブリッド開催、2023 年 11 月 17 日、参加者 38 名。

・第 4 回（冷凍部会との共催）、冷凍機冷却高温超電導磁石を用いたアルミビレット誘導加熱装置の開発、テラル株式会社本社（福山市）において開催、2023 年 12 月 7 日、参加者 30 名。

・第 5 回（電気学会 電力・エネルギー部門 超電導機器技術委員会、電気学会 材料・共通部門 金属・セラミック技術委員会との共催）、特別講演会、一般講演会、見学会、横浜国立大学（横浜市）と Microsoft Teams によるハイブリッド開催、2024 年 1 月 15 日、参加者 51 名。

・超電導の将来動向を調査し、超電導技術の進展を目指すため、電気学会超電導機器技術委員会と連携し、「超電導機器技術の将来的な技術動向」協同研究委員会の活動を行った（電気学会内）

（9）関西支部事業

1）支部総会を 2023 年 5 月 19 日に大阪大学豊中キャンパスにて開催した。出席者 30 名、委任状提出者 55 名で 2022 年度事業報告および 2023 年度事業計画が承認された。

2）第 1 回講演会・見学会を支部総会の後、開催した。「極限」環境をキーワードとした超高圧による超伝導研究および強磁場科学研究についての 2 件の講演と、講演に関わる装置・設備を見学した。参加者は 56 名（内オンライン参加 12 名、学生参加が 25 名）。

3）第 2 回講演会を 2024 年 2 月 2 日に大阪公立大学文化交流センターで「低温工学・超電導および周辺分野における新年情報交換会の集い」として開催した。高度な低温技術を有する企業の取り組みや大学・企業における核融合の研究開発状況に関する講演が行われた。参加者は 41 名（内 14 名はオンラインで、高校生 1 名の参加あり）。

4）第 39 回低温工学基礎技術講習会を(社)日本表面真空学会関西支部および(社)応用物理学会関西支部の協賛により 2023 年 9 月 11 日に大阪公立大学文化交流センターにおいて講義の部を、2023 年 9 月 12 日、13 日に京都大学と大阪大学にて、それぞれ「低温物性基礎実験」、「超伝導基礎物性の測定および磁気分離技術」の実習を行った。参加者は学生が 4 名、企業の若手技術者 21 名の計 25 名。

5）支部発足 50 周年を記念し、低温・超電導分野の未来と支部の歩みに関わる記念講演会、見学会および祝賀会を 10 月 20 日に開催した。午前中に液体水素関連設備の見学を行い（参加者 48 名）、午後は神戸大学統合研究拠点コンベンションホール（ポートアイランド）で記念講演会を開催した（参加者 130 名、内オンライン参加 31 名）。講演会の後、ポートピアホテルにて祝賀会を開催した（参加者 84 名）。

6）特別講演会として第22回低温工学・超伝導若手合同講演会を(社)応用物理学会関西支部、(社)日本表面真空学会関西支部およびセンシング技術応用研究会の協賛

により 11 月 24 日に関西学院大学大阪梅田キャンパスにて実施した。15 件の発表があり、参加者は 37 名。最優秀講演者 1 名に信貴賞、優秀講演者 4 名に若手奨励賞を授与した。

7）支部発足 50 周年記念事業の一環として、記念誌 関西支部発足 50 周年記念特集「低温・超電導の未来に向けて」を 2023 年 12 月に発行した。

8）同じく、支部 HP を 2023 年 4 月にリニューアルした。

9）役員会を 4 回開催（対面 3 回、オンライン 1 回）した。

10）諮問委員会を 2024 年 3 月 26 日に実施した。

11）事業会員向け報告書（2023 年度 低温工学・超電導学会関西支部の活動）を作成し、配布した。

（１０）東北・北海道支部事業

1）支部総会を 2023 年 4 月 17 日～ 4 月 27 日にメール審議により実施した。参加者 26 名。

2）記念講演会，学生研究交流会の紹介を 2023 年 4 月 14 日オンラインにより実施した。参加者 42 名。

3）研究会（材料研究会と共催）を2023年 8月 9日（水）～ 10 日（木）に、カーボンニュートラルなエネルギー社会の実現を目指す低温・超電導技術をテーマにハイブリッドで実施した。参加者17名。

4）合同学術講演会を 2023 年 12 月 6 ～7 日にハイブリッドで応用物理学会東北支部主催、低温工学・超電導学会東北・北海道支部共催として実施した。

5）役員会を年 3 回開催した。

6）学生企画イベントとしての学生研究交流会を 2023 年 10 月 3 日にオンラインで開催した。参加者 20 名。

（１１）九州・西日本支部事業

1）支部総会を2023年4月21日にオンラインで実施した。

2）企業セミナーを 2023 年 7 月 5 日にハイブリッド形式で実施した。参加者 47 名。

3）支部研究会を材料研究会と合同で 2023 年 11 月 10 日にハイブリッド形式で実施した。参加者 42 名。

4）若手イベント・支部成果発表会を 2023 年 11 月 11 日にハイブリッド形式で実施した。参加者 31 名。

5）支部内の活動ならびに低温・超電導技術に関する報告をまとめた超電導・低温技術レポート 2023 Vol. 17 を 2023 年 7 月に発行した。

6）役員会を 3 回開催した。

7）支部奨励賞を 2024 年 3 月に授与した。

（１２）冷凍部会事業

1）例会として講演会、見学会等を当初計画通り 7 回実施した。

・第 1 回：基礎講座「低温技術と安全」（公開） 2023 年 4 月 14 日に川崎重工(株)東京本社で開催した（ハイブリッド形式）。参加者 30 名。

・第 2 回：カーボンニュートラルに関する国内実証状況の現地見学会 2023 年 6 月 16 日に開催した。石油資源開発株式会社（JAPEX）・北海道事業所 勇払プラントおよび日本 CCS 調査株式会社（JCCS） 苫小牧・CCS 実証試験センターを見学した。参加者 15 名。

・第 3 回：再生可能エネルギーに関する講演会（公開） 2023 年 7 月 20 日にオンライン形式で開催した。参加者 33 名。

・第 4 回：国際会議報告会（公開） 2023 年 10 月 20，21 日に沼津・KKR で 4 年ぶりに対面開催した。参加者は日帰り参加者，講師を含め総勢 21 名。

・第 5 回：超電導回転機及び周辺冷却システムに関する講演会（公開）（超電導応用研究会/超電導回転機冷却調査研究会と共催） 2023 年 11 月 17 日にホテル機山荘（東京）で開催した（ハイブリッド形式）。参加者は現地 20 名，リモート 10 名の計 30 名。

・第 6 回：冷凍機冷却高温超電導磁石を用いたアルミビレット誘導加熱装置の開発（超電導応用研究会と共催） 2023 年 12 月 7 日にテラル(株)（福山）で開催した。講演と開発装置によるアルミビレットの連続加熱試験のデモンストレーションの見学。参加者 30 名。

・第 7 回：環境・安全委員会合同ワーキング「安全と教育」（公開） 2023 年 12 月 13 日に川崎重工(株)東京本社で開催した（ハイブリッド形式）。参加者は対面 20 名，リモート 13 名の計 33 名。

2）冷凍部会総会を 2023 年 4 月 14 日に川崎重工(株)東京本社で開催した。運営委員会を 8 回開催した。

3）春季学会併設企業展示会を 2023 年 5 月 31，6 月 1 日に船堀（東京）で，秋季学会併設企業展示会を 2023 年 12 月 4，5 日に下関（山口）で開催した。

4）2022 年度冷凍部会年間講演集を発行し，会員に配布した。

5）低温技術夏合宿「77 K 小型冷凍機を作ろう」 2023 年 7 月 31 日～8 月 4 日に 4 年ぶりに開催した。参加者 10 名

（１３）基盤強化事業

1）第 2 回賛助会員懇談会の開催を補助した。春季および秋季研究発表会において賛助会員特別招待券を運用した。

2）春季研究発表会において特別セッション「フェロー塾」、秋季研究発表会において特別セッション「賛助会員と学生の交流会」を開催した。

3）若手技術セミナーを 2023 年 11 月 17 日に物質・材料研究機構で開催した。参加者は 14 名。

4）若手の会勉強会を 2023 年 8 月 3 日に東京大学で、2024 年 3 月 19 日にオンラインで開催した。

5）市民公開講座と連携したデモ機コンテストを 2024 年 1 月 27 日に日本科学未来館で開催した。

6）過去の学会誌・講演概要集をデータ化した USB メモリを製作して賛助会員に配布した。

（１４）学会誌出版事業強化事業

学会誌発行に関し、学会誌の更なる充実化を行い事業の維持強化を図った。

（１５）運営委員会開催 4回。

Ⅱ 公益目的事業［2］

（1）褒賞事業

1）令和５年度褒賞

・論文賞

受賞者:海野峻太郎（川崎重工業㈱、京都大学）、 塩津正博、白井康之、大矢輝、川崎理香子、 松本郁哉（京都大学）

受賞対象論文：「超臨界水素の強制対流熱伝達現象の解析的評価」低温工学　第57巻（2022）　4号、254～260頁

・技術進歩賞

該当者なし

・解説論文賞

受賞者:寺尾悠、大崎博之（東京大学）

受賞対象論文：「電動推進航空機用超電導回転機の技術動向」低温工学　第57巻（2022）2号　71～78頁

・奨励賞

受賞者:鈴木匠（成蹊大学）

受賞者:長﨑陽（東北大学）

・業績賞（学術業績）

応募者なし

・業績賞（工業技術業績）

応募者なし

・功績賞（学術・技術功績）

受賞者：松本要（九州工業大学）

・功績賞（学会活動功績）

応募者なし

・優良発表賞　受賞者：

池田直生（東京農工大学）「MVT法 MgB_2 超伝導バルクの捕捉磁場特性モデリング」

加藤準一朗（東京理科大学）「$Bi_{2.2}Sr_{1.8}CaCu_2O_{8+\delta}$ 単結晶における臨界電流密度のドープ量依存性」

末富佑（理化学研究所）「伝導冷却All-HTS 900 MHz NMR磁石に向けたintra-Layer No-Insulation（LNI）REBCOコイルの設計検討」

關谷尚人（山梨大学）「高周波用超伝導線材を用いた高Q値コイルによる高効率ワイヤレス電力伝送システム」

曽我部友輔（京都大学）「SCSCケーブルの研究開発の進捗（2022年秋）(6)：銅複合多芯薄膜線材の熱暴走解析と実験の比較」

田中湧也（上智大学）「導電性エポキシを用いたintra-Layer No-Insulation（LNI）REBCOコイル接触抵抗率制御技術の構築」

野島 渉平（東北大学）「HTSバルク体を用いた磁気誘導型ドラッグデリバリーシステムに適した磁場分布の形成方法」

長谷川 友大（東京農工大学）「高エネルギー混合法Coドープ Ba122多結晶バルクのマクロ/ミクロ超伝導特性評価」

三浦正志（成蹊大学）「キャリア・ピン制御によるRE123超伝導線材の高臨界電流密度化」

吉原健彦（住友電気工業）「フッ素フリーMOD法を用いた人工ピン導入REBCO線材の開発」

・国際交流奨励賞

受賞者：呉澤宇（九州大学）

・科学技術インパクト賞

受賞者：伴野信哉（物質・材料研究機構）

受賞者：三浦正志（成蹊大学）

2）令和5年度フェロー顕彰

・石山敦士（早稲田大学）

・熊倉浩明（物質・材料研究機構）

III 法人関連事業（共催、協賛及びシンポジウム・講演会等）

（1）第13回社員総会

1）日時：2023年6月1日

2）場所：タワーホール船堀（東京都）

3）議案：第1号議案　令和4年度 年度事業報告、決算報告に関する件

報告：令和5年度事業計画、予算計画

（2）理事会開催　定例4回

2．主催、共催、協賛及び後援のシンポジウム・講演会等

(1) 日本混相流学会主催「混相流シンポジウム2023」協賛 2023年4月2日～7日（於：神戸国際会議場）

(2) 日本伝熱学会主催「第60回　日本伝熱シンポジウム」協賛　2023年5月25日～27日（於：福岡国際会議場）

(3) 日本表面真空学会主催「第58回真空技術基礎講習会」協賛　2023年5月23日～26日（於：大阪産業技術研究所）

(4) 低温工学・超電導学会主催「第105回　2023年度春季低温工学・超電導学会研究発表会」2023年5月31日～6月2日（於：タワーホール船堀）協賛：応用物理学会、日本機械学会、日本表面真空学会、日本冷凍空調学会、電気学会、日本物理学会

(5) 日本AEM学会主催「第35回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム（SEAD35）協賛　2023年6月12日～14日（於：広島国際会議場）

(6) 日本学術会議・総合工学委員会主催「安全工学シンポジウム2023」共催　2023年6月22日～23（於：日本学術会議）共催分担金　20,000円

(7) 応用物理学会　超伝導分科会主催「応用物理学会超伝導分科会　第67回研究会」協賛　2023年7月5日（於：愛知県産業労働センター）

(8) 日本表面真空学会主催「第4回オンライン真空講習会入門講座」協賛　2023年7月5日～2024年2月15日

(9) 日本混相流学会主催「混相流シンポジウム2023」協賛　2023年8月24日～26日（於：北海道大学）

(10) 日本真空工業会主催「第28回真空ウォーキングコース」協賛　2023年8月28日～9月1日（於：工学院大学）

(11) 日本表面真空学会主催「第60回（2023年度）真空夏季

大学」協賛　2023 年 8 月 29 日～9 月 1 日（於：八王子市生涯学習センター）

(12) 日本表面真空学会主催「第 4 回オンライン真空講習会」協賛　2023 年 9 月 5 日～2024 年 2 月 15 日

(13) 日本表面真空学会主催「第 3 回オンライン真空応用技術講座」協賛　2023 年 9 月 5 日～2024 年 2 月 15 日

(14) 日本冷凍空調学会主催「2023 年度　日本冷凍空調学会年次大会」協賛　2023 年 9 月 6 日～8 日（於：日本大学）

(15) 日本機械学会主催「伝熱工学資料（改訂第 5 版）」の内容を教材にした熱設計の基礎と応用」 協賛　2023 年 9 月 13 日、20 日（オンライン講演）

(16) 日本学術会議総合工学委員会総合工学企画分科会主催公開シンポジウム「社会課題に立ち向かう総合工学分野の人材育成～これからの大学教育に何を求めるか」後援　2023 年 9 月 13 日（於：日本学術会議講堂）

(17) 日本機械学会主催「第 27 回　動力・エネルギー技術シンポジウム」協賛　2023 年 9 月 20 日～21 日（於：東海海洋大学越中島キャンパス）

(18) つくば応用超電導コンステレーションズ（ASCOT）主催「第８回超電導スクール（2023)」後援　2023 年 10 月 26 日～27 日（於：AP 八重洲 / オンライン）

(19) 日本表面真空学会主催「2023 年日本表面真空学会学術講演会」協賛　2023 年 10 月 31 日～11 月 2 日（於：名古屋国際会議場）

(20) 日本高圧学会主催「第 64 回高圧討論会」協賛　2023 年 11 月 1 日～3 日（於：さわやかちば県民プラザ）

(21) 東北大学　流体科学研究所主催「ICFD2023 」(Twentieth International Conference on Flow Dynamics）協賛　2023 年 11 月 6 日～8 日（於：仙台国際センター / オンライン）

(22) ミレニアム・サイエンス・フォーラム主催「第 25 回ミレニアム・サイエンス・フォーラム」後援　2023 年 11 月 10 日（於：駐日英国大使館）

(23) 産業技術総合研究所、ヴィクトリア大学ウェリントン主催「第 36 回国際超電導シンポジウム（ISS2023)」後援　2023 年 11 月 28 日～30 日（於：タキナ ウェリントン コンベンション アンド エキシビション センター）

(24) 日本真空工業会、日本表面真空学会、日刊工業新聞社主催「VACUUM2023 真空展」協賛　2023 年 11 月 29 日～12 月 1 日（リアル開催　於：東京ビックサイト）2023 年 11 月 22 日～12 月 8 日（オンライン開催）

(25) 日本機械学会主催「第 25 回スターリングサイクルシンポジウム」協賛　2023 年 12 月 2 日（於：明星大学）

(26) 低温工学・超電導学会主催「第 106 回　2023 年度秋季低温工学・超電導学会研究発表会」　2023 年 12 月 4 日～6 日（於：山口　海峡メッセ）協賛：応用物理学会、日本機械学会、日本表面真空学会、日本冷凍空調学会、電気学会、日本物理学会

(27) 日本工学会主催　「第 5 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」協賛　2024 年 3 月 4 日（オンライン開催）

(28) 応用物理学会主催　「第 71 回応用物理学会学術講演会シンポジウム」協賛　2024 年 3 月 22 日（於：東京都市大学世田谷キャンパス&オンライン開催）

Ⅳ. 会員に関する事項

1．正会員、学生会員

2024 年 3 月 31 日　現在 906 名

正会員　740 名　学生会員 166 名

2023 年 3 月 31 日　現在 883 名

正会員　753 名　学生会員 133 名

2．賛助会員

2024 年 3 月 31 日現在　56 社　（111 口）

2023 年 3 月 31 日現在　54 社　（113 口）

3．事業会員

・関西支部

2024 年 3 月 31 日現在 28 社　(38 口)

2023 年 3 月 31 日現在 28 社　(38 口)

・東北・北海道支部

2024 年 3 月 31 日現在 8 社　(8 口)

2023 年 3 月 31 日現在 7 社　(7 口)

・九州・西日本支部

2024 年 3 月 31 日現在 13 社　(15 口)

2023 年 3 月 31 日現在 14 社　(16 口)

・冷凍部会

2024 年 3 月 31 日現在

［民間］22 社［大学・国法］　10 所　［図書］13 所　［個人］2 名

2023 年 3 月 31 日現在

［民間］21 社［大学・官公庁］8 所［図書］12 所　［個人］2 名

・図書会員

2024 年 3 月 31 日現在 16 社　(20 口)

2023 年 3 月 31 日現在 15 社　(20 口)

令和5年度　決算報告書

貸借対照表

令和 6年 3月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
現金預金	13,572,880	9,985,244	3,587,636
未収入金	295,722	904,297	△ 608,575
前払金	59,760	264,960	△ 205,200
前払費用	20,120	0	20,120
流動資産合計	13,948,482	11,154,501	2,793,981
２．固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	7,600,000	7,600,000	0
基本財産合計	7,600,000	7,600,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	1,968,800	1,560,580	408,220
事務所修繕費積立資産	1,642,978	1,642,978	0
記念事業積立資産	2,987,794	5,157,794	△ 2,170,000
出版事業強化事業積立資産	7,500,000	10,000,000	△ 2,500,000
基盤強化事業Ⅱ積立資産	2,491,251	3,482,594	△ 991,343
国際会議準備事業積立資産	943,494	943,494	0
教育・セミナー積立資産	1,102,000	1,302,000	△ 200,000
褒賞事業積立資産	3,748,534	4,329,567	△ 581,033
特定資産合計	22,384,851	28,419,007	△ 6,034,156
(3) その他固定資産			
建物	2,419,509	2,554,761	△ 135,252
什器備品	0	1	△ 1
土地	2,040,000	2,040,000	0
ソフトウェア	691,627	1,094,107	△ 402,480
敷金	210,000	210,000	0
その他固定資産合計	5,361,136	5,898,869	△ 537,733
固定資産合計	35,345,987	41,917,876	△ 6,571,889
資産合計	49,294,469	53,072,377	△ 3,777,908
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
未払金	922,352	939,125	△ 16,773
前受金	530,000	545,000	△ 15,000
預り金	162,307	95,984	66,323
未払消費税等	315,200	0	315,200
流動負債合計	1,929,859	1,580,109	349,750
２．固定負債			
退職給付引当金	1,968,800	1,560,580	408,220
固定負債合計	1,968,800	1,560,580	408,220
負債合計	3,898,659	3,140,689	757,970
Ⅲ　正味財産の部			
１．指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
２．一般正味財産			
一般正味財産合計	45,395,810	49,931,688	△ 4,535,878
正味財産合計	45,395,810	49,931,688	△ 4,535,878
負債及び正味財産合計	49,294,469	53,072,377	△ 3,777,908

正味財産増減計算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日まで

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,061	400	661
基本財産運用収入	1,061	400	661
特定資産運用益	239	268	△ 29
特定資産受取利息	239	268	△ 29
受取会費	16,655,770	14,349,770	2,306,000
正会員会費収入	6,166,500	6,210,000	△ 43,500
賛助会員会費収入	6,660,000	4,520,000	2,140,000
学生会員会費収入	587,500	490,000	97,500
事業会員会費収入	3,241,770	3,129,770	112,000
関西支部会費	760,000	760,000	0
東北・北海道支部会費	160,000	140,000	20,000
九州・西日本支部会費	300,000	320,000	△ 20,000
冷凍部会会費	1,594,000	1,482,000	112,000
図書会費	427,770	427,770	0
事業収益	14,119,022	15,115,006	△ 995,984
研究会・講習会収入	10,723,200	10,773,500	△ 50,300
出版収入	774,322	1,403,506	△ 629,184
広告収入	2,621,500	2,908,000	△ 286,500
雑収入	0	30,000	△ 30,000
受取補助金等	300,000	513,073	△ 213,073
受取助成金	300,000	513,073	△ 213,073
雑収益	269,987	222,721	47,266
受取利息	188	169	19
雑収入	269,799	222,552	47,247
経常収益計	31,346,079	30,201,238	1,144,841
(2) 経常費用			
事業費	30,770,598	27,362,546	3,408,052
給料手当	6,018,651	5,461,967	556,684
臨時雇賃金	535,145	410,619	124,526
退職給付費用	280,488	157,885	122,603
福利厚生費	842,010	676,896	165,114
会議費	1,984,020	1,235,669	748,351
旅費交通費	2,481,017	1,149,415	1,331,602
通信運搬費	1,461,736	1,206,128	255,608
減価償却費	458,640	458,640	0
消耗品費	524,844	659,379	△ 134,535
印刷製本費	7,445,918	8,003,103	△ 557,185
光熱水料費	86,153	105,530	△ 19,377
賃借料	2,543,076	2,200,885	342,191
諸謝金	1,727,581	1,294,933	432,648
諸会費	74,221	60,853	13,368
租税公課	309,834	18,428	291,406
報償費	776,218	519,086	257,132
支払負担金	87,100	87,100	0
委託費	2,770,139	3,442,837	△ 672,698
雑費	363,807	213,193	150,614
管理費	5,111,359	5,208,320	△ 96,961
給料手当	2,740,847	2,941,059	△ 200,212
退職給付費用	127,732	85,015	42,717
福利厚生費	383,445	364,482	18,963
会議費	26,627	23,861	2,766
旅費交通費	467,637	398,255	69,382
通信運搬費	275,203	353,164	△ 77,961

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
減価償却費	79,093	79,092	1
消耗品費	144,568	208,581	△ 64,013
印刷製本費	37,461	36,317	1,144
光熱水料費	39,233	56,824	△ 17,591
賃借料	341,824	344,414	△ 2,590
諸会費	33,799	32,767	1,032
租税公課	141,096	10,734	130,362
委託費	215,966	226,923	△ 10,957
雑費	56,828	46,832	9,996
経常費用計	35,881,957	32,570,866	3,311,091
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,535,878	△ 2,369,628	△ 2,166,250
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,535,878	△ 2,369,628	△ 2,166,250
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,535,878	△ 2,369,628	△ 2,166,250
一般正味財産期首残高	49,931,688	52,301,316	△ 2,369,628
一般正味財産期末残高	45,395,810	49,931,688	△ 4,535,878
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	45,395,810	49,931,688	△ 4,535,878

財務諸表に対する注記

１．継続組織の全治に関する注記

該当事項なし

２．重要な会計方針

（１）固定資産の減価償却の方法

建　　物…定額法による減価償却を実施している。

什器備品…定額法による減価償却を実施している。

（２）引当金の計上基準

退職給付引当金…従業員退職金の支給に備えるため期末要支給額を計上している。

（３）消費税等の会計処理

税込方式を採用している。

３．会計方針の変更

該当事項なし

４．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金　（注）1	7,600,000	0	0	7,600,000
小　　計	7,600,000	0	0	7,600,000
特定資産				
退職給付引当資産	1,560,580	408,220	0	1,968,800
事務所修繕費積立資産	1,642,978	0	0	1,642,978
記念事業積立資産	5,157,794	150,000	2,320,000	2,987,794
褒賞事業積立資産	4,329,567	0	581,033	3,748,534
出版事業強化Ⅱ事業積立資産	10,000,000	0	2,500,000	7,500,000
基盤強化事業Ⅱ積立資産	3,482,594	0	991,343	2,491,251
国際会議準備事業積立資産	943,494	0	0	943,494
教育・セミナー事業積立資産	1,302,000	0	200,000	1,102,000
小　　計	28,419,007	558,220	6,592,376	22,384,851
合　　計	36,019,007	558,220	6,592,376	29,984,851

（注）1　故大山義年氏、故大島恵一氏、故門奈五兵氏及び故前田弘氏により寄贈された財産である。

５．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

（単位：円）

科　　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
定期預金	7,600,000	0	7,600,000	0
小　　計	7,600,000	0	7,600,000	0
特定資産				
退職給付引当資産	1,968,800	0	1,968,800	1,968,800
事務所修繕費積立資産	1,642,978	0	1,642,978	0
記念事業積立資産	2,987,794	0	2,987,794	0
褒賞事業積立資産	3,748,534	0	3,748,534	0
出版事業強化Ⅱ事業積立資産	7,500,000	0	7,500,000	0
基盤強化事業Ⅱ積立資産	2,491,251	0	2,491,251	0
国際会議準備事業積立資産	943,494	0	943,494	0
教育・セミナー事業積立資産	1,102,000	0	1,102,000	0
小　　計	22,384,851	0	22,384,851	1,968,800
合　　計	29,984,851	0	29,984,851	1,968,800

６．担保に供している資産

該当事項なし

７．固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高

（単位：円）

科　　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建　　物	11,560,000	9,140,491	2,419,509
什器備品	1,208,430	799,851	0
土　　地	2,040,000	0	2,040,000
ソフトウェア	2,607,897	1,916,270	691,627
敷　　金	210,000	0	210,000
合　　計	17,626,327	11,856,612	5,361,136

８．債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高
該当事項なし

９．保証債務等の偶発債務
該当事項なし

10．満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当事項なし

11．補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
MICE開催助成金	一般社団法人下関観光コンベンション協会	0	300,000	300,000	0	
合　　計		0	300,000	300,000	0	

12．基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当事項なし

13．指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
該当事項なし

14．関連当事者との取引の内容
該当事項なし

15．キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引
該当事項なし

16．重要な後発事象
該当事項なし

17．その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項
該当事項なし

附属明細書

１．基本財産および特定資産の明細

財務諸表に対する注記４．に記載している。

２．引当金の明細

（単位：円）

	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,560,580	408,220	0	0	1,968,800

（注）計上基準は財務諸表に対する注記１．（２）に記載している。

財　産　目　録

令和6年3月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金　額
(流動資産)	現金	事務局	運転資金として	90,757
		冷凍部会	運転資金として	56,762
		関西支部	運転資金として	31,783
		九州・西日本支部	運転資金として	22,202
			合計	201,504
	普通預金	みずほ銀行本郷支店（事務局）	運転資金として	6,284,127
		みずほ銀行本郷支店（事務局）	春秋学会参加費受入用として	2,351,023
		みずほ銀行本郷支店（事務局）	運転資金として	124,777
		GMOあおあぞらネット銀行（冷凍部会）	運転資金として	135,925
		三井住友銀行豊中支店（関西支部）	運転資金として	1,340,025
		福岡銀行黒門支店（九州・西日本支部）	運転資金として	1,542,950
			合計	11,778,827
	郵便振替	東京地方郵便局（事務局）	運転資金として	650,555
		神戸西郵便局（関西支部）	運転資金として	266,802
		ゆうちょ銀行:一二八店（東北･北海道支部）	運転資金として	675,192
			合計	1,592,549
	未収入金	㈱明報社	学会誌（Vol.59-2)広告料	283,500
		東京大学	学会誌（Vol.59-1)冊子代	12,222
			合計	295,722
	前払金	マネーフォワードクラウド	2024年度マネーフォワード年間利用料	59,760
			合計	59,760
	前払費用	みぞぐち商会	火災保険料（2024年度～2027年度分）	20,120
流動資産合計				13,948,482
基本財産	基本財産	みずほ銀行　定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を諸事業並びに法人で使用している。	7,600,000
			合計	7,600,000
特定資産	退職給付引当資産	みずほ銀行 定期預金	職員の退職金の支払いに備えて積み立てた資産である。	1,968,800
	事務所修繕費積立資産	みずほ銀行 定期預金	事務所の修繕に備えるもの	1,642,978
	記念事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	記念事業に備えて積み立てた資産である。	2,987,794
	褒賞事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	褒賞事業のために積み立てた資産である。	3,748,534
	出版事業強化Ⅱ事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	出版事業強化事業のために積み立てた資産である。	7,500,000
	基盤強化事業Ⅱ積立資産	みずほ銀行 普通預金	学会の活性化に向けた活動のために積み立てた資産である。	2,491,251
	国際会議準備事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	国際会議準備事業のために積み立てた資産である。	943,494
	教育・セミナー事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	セミナー内容の充実・活性化のために積み立てた資産である。	1,102,000
			合計	22,384,851
その他固定資産	建物	東京都文京区 事務局	60%は諸事業の利用に相当する公益目的保有財産であり、40%は管理業務に利用している。	2,419,509
	土地	東京都文京区本郷6-12-8事務局建物敷地持分	60%は諸事業の利用に相当する公益目的保有財産であり、40%は管理業務に利用している。	2,040,000
	敷金	パレドール本郷301号室	同　上	210,000
	ソフトウエア	システム開発費	公益目的保有財産である。	566,667
	同上	PCA会計ソフト	60%は諸事業の利用に相当する公益目的保有財産であり、40%は管理業務に利用している。	124,960
			合計	5,361,136
固定資産合計				35,345,987
資産合計				49,294,469
(流動負債)	未払金	日本印刷㈱	学会誌59-2出版費用	771,434
		文京年金事務所	社会保険料　2，3月分	104,448
		㈱庚伸	サポート料3月分　他	22,770
		ダイヤオフィスシステム㈱	コピーカウンタ料金3月分	13,220
		ニフティ㈱他	ビジネスアカウント管理料、他	10,480
			合計	922,352
	前受金	正会員および学生会員	2024年度会費	521,000
		正会員	2025年度会費	9,000
			合計	530,000
	預り金	源泉所得税(給与分)	1月から3月分	38,500
		源泉所得税(諸謝金分)	3月分	7,207
		社会保険料	2，3月分	102,000
		住民税	3月分	14,600
			合計	162,307
	未払消費税等			315,200
流動負債合計				1,929,859
(固定負債)	退職給与引当金	職員に対するもの	職員の退職金の支払いに備えて積み立てた資産である。	1,968,800
固定負債合計				1,968,800
負債合計				3,898,659
正味財産				45,395,810

監　査　報　告　書

公益社団法人 低温工学・超電導学会
代表理事・会長　秋田 調 殿

私たち監事は、令和５年４月１日から令和６年３月 31 日までの令和５事業年度の理事の職務並びに財産及び損益の状況を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告します。

１．監査の方法

私たち監事は理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、職務執行の状況を調査しました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

また、会計に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

２．監査の結果

（１）事業報告の監査結果

① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

② 理事の職務の執行に関して不正の行為文は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（２）計算書類及び附属明細書並びに財産目録の監査結果

① 計算書類及び附属明細書並びに財産目録は 、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

② 現金並びに預貯金は、適正に管理しているものと認めます。

2024 年 4 月 17 日

公益社団法人　低温工学・超電導学会

監事　濱島高太郎

監事　杉本昌弘

第２号議案資料

次期役員候補者

１．理事（令和６年度から令和７年度）

秋田　調	（一財）電力中央研究所（会長候補者）
淡路　智	東北大学
木須　隆暢	九州大学
島崎　毅	産業技術総合研究所
下山　淳一	青山学院大学
田口　裕章	（株）ジェック東理社
武田　実	神戸大学
筑本　知子	大阪大学
鶴留　武尚	住友重機械工業（株）
戸坂　泰造	東芝エネルギーシステムズ（株）
仲井　浩孝	高エネルギー加速器研究機構
野元　一宏	三菱電機（株）
林　和彦	（株）Kyoto Future Medical Instruments
平井　寛一	大陽日酸（株）
和久田　毅	（株）日立製作所

２．監事（令和６年度から令和９年度）

横山　彰一	ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー（株）

なお、杉本昌弘監事は非改選：任期　令和４年度～令和７年度

報告事項

令和６年度事業計画

Ⅰ　公益目的事業［1］

（1）研究発表会事業

1）2024 年春季低温工学・超電導学会研究発表会
（通算第 107 回）
・会期：2024 年 5 月 23 ～25 日
・会場：明星大学（東京都）
・併設展示会を開催する。

2）2024 年秋季低温工学・超電導学会研究発表会
（通算第 108 回）
・会期：2024 年 11 月 25～27 日
・会場：アイーナ・岩手県民情報交流センター（盛岡市）
・併設展示会を開催する。

3）調査研究会として、次の６テーマを実施する。
・カーボンニュートラルに向けた核融合研究の新展開に関する調査委員会（2022～2024 年度）（継続）
・野外磁場印加用超大型コイルの設計研究（2022～2024 年度）（継続）
・時空間変調磁場の制御と応用に関する調査研究会（2022～2024 年度）（継続）
・小型核融合用 REBCO 導体とマグネットの実用化に関する調査研究会（2023～2025 年度）（継続）
・中温度域超伝導材料の機能性に関する調査研究会（2023～2025 年度）（継続）
・高温超伝導バルク体の産業応用に関する調査研究会（2023～2025 年度）（継続）

（2）学会誌出版事業

1）第59 巻3号～60 巻2号の6冊を発行する。

2）特集テーマとして以下を予定している。
59巻4号：特集「今だから話せる超電導コイル製作の経験談と将来への展望」
59 巻5号：特集「JT-60SA 用大型マグネットの完成とマグネット運転」

3）学会誌電子書籍化に関する検討を行う。

（3）国際交流事業

1）国際交流奨励賞：若手研究者の国際交流支援を目的に 褒賞選考委員会に協力する。

2）第７回アジア超電導スクールを IEEE Council on Superconductivity（CSC），The European Society for Applied Superconductivity（ESAS）との協力によって実施する。

3）2025 年度に本学会の主催による開催が決まった The 12th Asian Conference on Applied Superconductivity and Cryogenics / 4th Asian International Cryogenic Materials Conference（12th ACASC/4th Asian-ICMC）の準備を進める。

4）IEEE Council on Superconductivity（CSC）Administrative Committee（AdCom）への出席・協働事業実施報告を行う。

5）The European Society for Applied Superconductivity（ESAS）理事会への出席・協働事業実施報告を行う。

6）Superconductivity Global Alliance（ScGA）活動に協力する。

7）The Korean Society of Superconductivity and Cryogenics（KSSC）との MOU 締結について、引き続き調整を進める。

（4）広報・広告関連事業

1）社会に対する広告活動として HP にて各種イベント開催案内を行うとともに、賛助会員企業紹介ページの拡充を行う。

2）学会員、企業会員への広報活動として内部広報を実施する。

3）学会 HP 等での電子媒体広告について検討する。

（5）ホームページ事業

1）ホームページの維持・管理を継続する。

2）ホームページのより広範な活用を進める。

（6）教育・セミナー事業

1）秋季学会に併せて市民公開講座を開催する。

（7）環境・安全関係事業

1）関連情報の入手のための安全工学シンポジウム共催。

2）合同 WG を含む委員会活動の実施。

3）安全テキスト編纂と web 公開および改訂。

4）安全と信頼性アンケートの実施および分析。

（8）研究会事業

1）材料研究会として、シンポジウムを計4 回開催する。

2）超電導応用研究会として、シンポジウムを３ 回開催する。また，30 周年記念事業を１回開催する。さらに、電気学会・超電導機器技術委員会の将来的な技術動向協同研究委員会に協力する。

（9）関西支部事業

1）関西支部総会を5 月に開催する。

2）関西支部講演会を５月、10 月、１月に計３回開催する。

3）低温工学基礎技術講習会を9 月に開催する。

4）低温工学・超伝導若手合同講演会を 11 月に開催する。

5）役員会を４回開催する。

6）関西支部事業会員向け報告書を作成する。

（１０）東北・北海道支部事業

1）東北・北海道支部総会を4 月に開催する。

2）東北・北海道支部研究会を８月に開催する。

3）学生研究交流会を 10 月～12 月に開催する。

4）市民公開講演会を11 月頃に開催する。

5）九州・西日本支部との交流事業として講師を派遣する。

6）役員会を年3 回開催する。

（１１）九州・西日本支部事業

1）九州・西日本支部総会・企業セミナーを４月に開催する。

2）若手セミナーおよび支部成果発表会を１回開催する。

3）材料研究会と合同で支部研究会を１回開催する。

4）研究会・外国人著名研究者の特別講演会を１回開催する。

5）超電導・低温技術レポートをまとめる。

6）役員会を４回開催する。

7）支部長賞及び支部奨励賞を授与する。

（１２）冷凍部会事業

1）冷凍技術等に関する講演会、見学会等を年間６回程度実施する。海外で開催された学会の中から最新技術動向等の報告会も含める。

2）例会事業、低温技術講習等の事業に関する実行計画、及び次年度実施事業計画等を策定する。

3）低温工学・超電導学会研究発表会において併設展示会に協力する。

4）前年度の講演会を取り纏めた年間講演集を発行し、会員に配布する。

5）冷却・冷凍・超電導に関する装置を製作し、その原理等を易しく説明する低温技術講習会を実施する。講習会対象者を学会員以外にも広げ、低温工学・超電導工学の啓蒙を図る。

（１３）基盤強化事業

1）財政基盤強化策を企画・実施する。

2）低温工学・超電導学会研究発表会において特別セッションを企画・実施する。

3）若手の会を企画・運営する。

4）デモ機コンテスト等を企画・実施する。

（１４）運営委員会開催　4回

（１５）第 4 回高温超電導応用のための冷却システムに関する国際会議事業

1）第 4 回高温超電導応用のための冷却システムに関する国際会議を 2024 年 10 月 23～25 日に松江市で開催する。

II　公益目的事業［2］

（1）　褒賞事業

1）令和6年度褒賞

・論文賞（学術）

受賞者：長﨑陽、津田理（東北大学）

受賞対象論文：「高温超電導コイルを用いた鉄道非接触給電システムの商用周波数運用時における電力伝送特性」低温工学　第 58 巻、1 号　19～26 頁

・論文賞（技術）

受賞者:伊東徹也（テラル㈱）、福井聡（新潟大学）、河島裕　緒方康博（テラル㈱）古瀬充穂（産総研）、渡部智則（中部電力）、小川純（新潟大学）

受賞対象論文：「高温超電導マグネットを用いたアルミ押出成形用 400ｋW 級直流誘導加熱装置の開発－連続繰り返し加熱試験と高温超電導マグネットの健全性評価－」

低温工学　第 58 巻、1 号　124～131 頁

・解説論文賞

受賞者:伴野信哉（物質・材料研究機構）

受賞対象論文：「第３元素添加 Nb_3Sn 線材の Sn 拡散と微細組織」低温工学第 58 巻 3 号　95～107 頁

・奨励賞

受賞者:三浦俊（九州大学）

受賞者:元木貴則（青山学院大学）

・業績賞（学術業績）

受賞者:山本明保（東京農工大学）

・業績賞（工業技術業績）

応募者なし

・功績賞（学術・技術功績）

受賞者：土屋清澄（高エネルギー加速器研究機構）

・功績賞（学会活動功績）

応募者なし

・優良発表賞

受賞者：

岩崎　響（青山学院大学）「混合 B 原料を用いて作製した MgB_2 バルクの超伝導特性」

大石　崇史（早稲田大学）「ピックアップコイルを用いた無絶縁 REBCO パンケーキコイルにおける局所劣化の監視技術」

大崎　瑛介（青山学院大学）「FF-MOD 法 RE123 薄膜における積層欠陥導入による臨界電流特性改善の試み」

大西　漠（豊橋技術科学大学）「集束イオンビーム法による $YBa_2Cu_3O_{7-\delta}$ プローブの作製と評価」

押本　夏佳（山梨大学）「超伝導バルクコイルを用いたワイヤレス電力伝送のための冷却システムの開発及びそれを用いた温度依存性の評価」

耿　智輝（東海大学）「溶融した $BaCu_2O_2$ を利用した YBCO 丸線材作製方法の基礎検討」

荘　浚謙（大阪大学）「「スケルトン・サイクロトロン」用 REBCO コイルシステムの開発（2023 年春）：（その５）ECR イオン源用無絶縁 REBCO コイルの開発

祖父江　卓哉（京都大学）「MgB_2 多芯線の結合損失特性の実験的評価」

竹村　賢人（芝浦工業大学）「Er-Ba-Cu-O 超伝導接合材を用いた Gd-Ba-Cu-O 接合バルク超伝導体の接合部特性の制御」

野口　剛志　（埼玉大学）「基板ノイズ低減に向けた STJ 検出器の Buffer 材料選定」

・国際交流奨励賞

受賞者：高 雲飛（京都大学）

・科学技術インパクト賞

受賞者：富田優（鉄道総合技術研究所）

受賞題目：鉄道用超電導ケーブルを用いた世界初の営業線（客車線）実用運転」

2）令和6年度フェロー顕彰

・三戸 利行（核融合科学研究所）

III. 法人関連事業

1．社員総会・理事会等に関する事項

（1）第 14 回社員総会

1）日時：2024 年 5 月 24 日

2）場所：明星大学（東京都）

3）議案：令和5年度事業報告および決算報告

4）議案：次期役員の選任

5）報告：令和6年度事業計画および予算計画

（2）理事会開催　定例4回 、臨時理事会1回

（3）内部統制規約の検討

2．共催、協賛及び後援のシンポジウム・講演会等

1）低温工学・超電導学会主催「第107回低温工学・超電導学会研究発表会」2024年5月23日～25日（於：明星大学）協賛：応用物理学会、電気学会、日本物理学会、日本機械学会、日本表面真空学会、日本冷凍空調学会

2）日本学術会議主催「安全工学シンポジウム2024」

共催依頼　2024年6月26日～28日（於：日本学術会議）

3）低温工学・超電導学会主催「第108回低温工学・超電導学会研究発表会」2024年11月23日～25日（於：アイーナ・いわて県民情報交流センター）協賛：応用物理学会、電気学会、日本物理学会、日本機械学会、日本表面真空学会、日本冷凍空調学会

令和6年度　収支予算書

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで

（単位：円）

科　　目	予算額	前年度予算額	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	500	500	0
基本財産運用収入	500	500	0
特定資産運用益	500	500	0
特定資産受取利息	500	500	0
受取会費	16,307,900	16,048,000	259,900
正会員会費収入	5,842,500	5,953,000	△ 110,500
賛助会員会費収入	6,660,000	6,480,000	180,000
学生会員会費収入	585,000	425,000	160,000
事業会員会費収入	3,220,400	3,190,000	30,400
関西支部会費	760,000	760,000	0
東北・北海道支部会費	160,000	160,000	0
九州・西日本支部会費	300,000	320,000	△ 20,000
冷凍部会会費	1,593,000	1,481,000	112,000
図書会費	407,400	469,000	△ 61,600
事業収益	20,891,000	14,111,000	6,780,000
研究会・講習会収入	18,021,000	11,081,000	6,940,000
出版収入	640,000	700,000	△ 60,000
広告収入	2,030,000	2,130,000	△ 100,000
補助金収入	200,000	200,000	0
受取補助金等	2,800,000	700,000	2,100,000
コンベンション等補助金	300,000	0	300,000
受取補助金	2,500,000	700,000	1,800,000
雑収益	150,200	150,200	0
受取利息	200	200	0
雑収入	150,000	150,000	0
経常収益計	40,150,100	31,010,200	9,139,900
(2) 経常費用			
事業費	34,956,917	31,486,360	3,470,557
給料手当	5,280,720	5,195,520	85,200
臨時雇賃金	906,500	767,000	139,500
退職給付費用	181,680	147,660	34,020
福利厚生費	720,600	685,200	35,400
会議費	3,724,600	2,951,000	773,600
旅費交通費	3,562,000	2,596,500	965,500
通信運搬費	1,304,700	1,313,900	△ 9,200
減価償却費	460,000	460,000	0
消耗品費	1,825,100	899,500	925,600
印刷製本費	7,925,000	8,180,000	△ 255,000
光熱水料費	106,200	106,200	0
賃借料	3,861,000	3,128,100	732,900
諸謝金	1,931,000	1,586,000	345,000
諸会費	70,800	57,600	13,200
租税公課	16,200	195,600	△ 179,400
報償費	756,117	935,000	△ 178,883
支払負担金	135,000	120,000	15,000
委託費	1,991,700	1,774,380	217,320
雑費	198,000	387,200	△ 189,200
管理費	6,392,400	6,207,240	185,160
給料手当	3,520,480	3,463,680	56,800
退職給付費用	121,120	98,440	22,680
福利厚生費	480,400	456,800	23,600
会議費	39,400	51,000	△ 11,600
旅費交通費	592,000	592,000	0
通信運搬費	401,000	220,600	180,400
減価償却費	80,000	80,000	0
消耗品費	269,400	231,000	38,400
印刷製本費	37,000	22,000	15,000
光熱水料費	70,800	70,800	0

（単位：円）

科　　目	予算額	前年度予算額	増　減
賃借料	394,000	439,400	△ 45,400
諸会費	47,200	38,400	8,800
租税公課	12,800	132,400	△ 119,600
委託費	259,800	238,920	20,880
雑費	67,000	71,800	△ 4,800
経常費用計	41,349,317	37,693,600	3,655,717
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,199,217	△ 6,683,400	5,484,183
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,199,217	△ 6,683,400	5,484,183
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,199,217	△ 6,683,400	5,484,183
一般正味財産期首残高	45,395,810	49,931,688	△ 4,535,878
一般正味財産期末残高	44,196,593	43,248,288	948,305
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
Ⅳ　正味財産期末残高	44,196,593	43,248,288	948,305